

マーガレット

*科名：キク科 *属名：アルギランテマム属

*性状：常緑多年草 *原産地：カナリア諸島

●マーガレットといえば白の一重咲きの清楚な花を思い浮かべますが、最近では改良が進み、白、ピンク、赤などいろいろな花色のものが出回るようになりました。また花の咲き方にも八重咲き、丁字咲きなど、多種多彩になってきました。早春には欠かせない鉢花です。



【販売店様へ】

比較的、寒さに強いマーガレットは1月から店頭で並ぶと思いますが、やはり、霜が降りる場所は避けたほうが安全です。霜で枯れることはないものの、凍傷による葉焼けや花の痛みは避けられません。日中は戸外の外売場でも構いませんが、夜間だけは、霜除けをしてください。冬でも水遣りは欠かせません。萎れるほど、乾燥すると、下葉が黄化し見苦しくなります。それに、マーガレットは植物の特性上、根が非常に強く旺盛です。ほとんどの商品は鉢の中で根詰まりしかけていると思われるので、あまり、在庫を持たずに、常に新鮮なものを置くように心掛けてください。弊園のマーガレットは温室内で栽培しており日中は外気温になるべく近づける為、換気を充分にしていますが、それでも、霜除けは必要です。

【購入されたお客様へ】

購入されたマーガレットはほとんどのものが、鉢の中で、根詰まりを起しかけています。これは、植物の性質上、やむを得ないのですが・・・購入後はなるべく、早めに、ひと回り大きな鉢に植え替えてください。植え替え後しばらく（4~5日間）は暖かい場所（玄関の中）などで養生しその後、順番に慣らしながら戸外に出すようにしてください。冬の間（1月~3月）日中は戸外（1℃以上）でも大丈夫ですが、夜間は軒下や室内にとりこんでください。霜が降りなくなる頃（4月10日過ぎ）になれば一日中、戸外でも構いません。水遣りは、鉢の表面が乾いたら、たっぷりと与えます。あまり乾燥させてしまうと下葉が黄色くなったり、葉焼けを起こしたりします。花がたくさん咲くにつれ、たくさんの肥料も必要になってきます。肥料が少ない場合も、下葉が黄色くなってしまうので、このような症状がでてきたら、市販の液体肥料を早急に与えてあげてください。一度、黄色くなってしまった、下葉は元には戻りません。放っておくと、病気の原因にもなるので、取り除いてあげてください。夏には花も一休みします。花が少なくなってくる、6月（入梅前）には思い切って、刈り込みが必要です。又この時期に地植えにすることで、大地に根が張り植物が丈夫になります。そうすることで、暑い日本の夏を乗り切ることが出来ます。秋にはまた、新芽が出始め、涼しくなる10月中旬ころから、再び、綺麗な花を咲かせてくれることでしょう。また6月頃に地植えしたマーガレットは戸外でも冬越しする事が出来るでしょう。（関東以南が対象）